

人と人とのつながりがきらりと光る塩田

◎さが未来スイッチ交付金事業・・・ソバつく

り

①耕作放棄地（荒廃田・畑）活用

平成27年度からの継続として、「耕作放棄地有効活用実行委員会」の主導により、今年も、佐賀県と嬉野市の補助金を活用しながら、管内約110アール（塩吹に53アール、美野に57アール）の荒廃田・畑に「ソバ」を播きます。蒔き付けは8月下旬で、収穫は11月下旬の予定です。

（事業内容）

イ、塩田小学校区内(14区)の現況は、山間部を主として耕作されず、荒れていく田・畑が増加し、また、65才以上の



割合が32.6%（27.10月時点）と嬉野市の平均を上回り、その傾向は更に増加の一途の予想です。そういう中、子供から高齢者まで「食」を通してコミュニケーションを図る材として、「ソバ」を考えました。

ロ、「ソバ」を栽培することにより、高齢化対策とともに、

農地の有効活

用が図られ、些少ではあるが地域の活性化に繋げることができる……と考えました。更には、昨年は、6箇所で開催したソバ打ち体験・ソバを使った料理・試食会などを開催することで、人の交流ができるはず

です。ハ、有効活用地において自家野菜の栽培の督励を行い、①ソバの取扱②新鮮野菜の即売会を実施します。



ニ、「塩田蕎麦の会」を中心に、みんなで体験・挑戦をしてソバづくりに取り組みます。あなたも参加しませんか？

そして、塩田のソバとしての特産品づくりを目指しませんか。

## 防災対策 ・ ・ ・ 線状降水帯

- 発生しやすい地域 ・ ・ ・ ・ ・ 6月は沖縄、九州南部  
7月以降になると、北上傾向になる。
- 対策 ・ ・ ・ ・ ・ 雨に関する情報をしっかりと確認。  
飲料水の確保、避難場所の事前確認、二人以上で行動、携帯は必須。
- 先の朝倉市、東峰村、日田市を中心として、発生した「線状降水帯」は、最近の日本は、「どこも安全な場所はない」といわれます。

自身の身に起こることを思い、気象情報や地域の避難場所について調べておくこと

災害が起こってから出る言葉は、「こがんひどかて思わんやった」

コミュニティスクールより



ウナギとカ

ニの放流

小学4年生が、年間を通して「塩田川



て調査と研究に取り組んでいます。清流といわれる

「塩田川」ですが、最近“川鵜”により、アユ、ハヤがめっきり少なくなりました。

元の環境を取り戻すために、定期的に各種魚類の放流をしていますが、今回は「モクズカニ」20kg(約400匹)「ニホンうなぎ」6kgを放流しました。本流の水量が多かったため、支流である美野の「流海川」で実施しました。

放流風景は、賑やかなものでした。子供達の故郷への愛着とともに、太

公望が、大勢訪れてくれるような塩田川に早くしたいものです。



### ◎お知らせコーナー

8月の行事

25～26日

ソバ蒔き作業